

## いきいき茨城ゆめ国体トライアスロン競技結果について

成人男子監督 鳥居敬之

### 1 競技結果

井辺弘貴選手 1時間58分34秒 23位

坂口直人選手 2時間1分38秒 32位

### 2 総評

私、井辺選手、予備選手の寺田選手及び、成人女子児玉監督、西岡選手、伊藤選手、チームスタッフの田中氏および菅野氏は、大会の前々日に現地入りし、運搬した競技資機材のバイクについてもその日に組み立てとチェックを行うことができた。そのため、大会前日の午前中は各選手の自主練習やバイクコースの確認等にあてることができた。

また、坂口選手と成人女子予備選手の笠原選手は、午後からの公式スイム練習時には現地入りすることができ、全員トラブル等なく現地で集合することができた。

大会当日は、午前中に女子競技、午後から男子競技が行われた。女子競技では西岡選手が7位入賞、伊藤選手も33位という成績であった。準備の合間に応援を行っていた井辺、坂口選手もチームメイトの奮戦により刺激を受けた様子であった。

井辺、坂口選手は、昨年の福井国体や他の大会で数多くの成績を取っている実力者である。私からはルールやペナルティ等の細かい内容について口頭で確認は行うものの、実際の競技展開や作戦といったものはなく、実質は選手任せであった。

坂口選手、井辺選手の順番にトップ選手から約2分から2分半の差でスイムを終了した。バイク1周目終了時には、両選手がトップ選手から約3分差の同じ集団でレースを展開する状況であった。バイクを得意とする井辺選手は、常に先頭付近で集団を引っ張る展開であり、バイク終了時には前の選手や集団を吸収して20名を超える大集団を形成する状況であった。

坂口選手はバイク競技中頃に井辺選手の集団からは遅れたものの、一つ後方の集団に合流した後は崩れることなくペースを維持してレースを展開する状況であった。

午後になって気温も上がり、湿度も高く蒸し暑い状況であったが、両選手とも崩れすることなく、実力者ぞろいの上位選手の中で着実に順位を上げていく状況であった。

結果、両選手とも昨年より順位を上げることができた（福井国体：井辺選手30位、坂口選手59位）。また、和歌山県のチームとして皇后杯7位という結果を取ることができた。私としても監督して国体協議に携わることができてよい経験ができた。

各選手の今後の活躍と、和歌山県のトライアスロン競技が益々盛り上がることを期待する。

以上